



岩城少年自然の家だより

自然は友だち 青い海原 緑の山なみ

のべ利用者数（1983年6月～2026年9月） 1,157,127 名 9月の利用者数 793 名

秋田県立岩城少年自然の家
（ガンバル岩城）2026. 10. 22

異年齢交流の機会



キッズキャンプ～とんぼとあそぼう『とんぼ祭り』～

直近の国勢調査を紐解くと、本県の核家族世帯数の割合は53.0％で全体の半数以上が核家族世帯です。また、65歳以上世帯員のいる世帯数の割合は、全体世帯数の57.5％を占め、全国トップの水準です。つまり、本県は核家族化は進んでいますが高齢者という人的資源は、他の都道府県よりも恵まれています。

令和8年9月26日（土）開催の「キッズキャンプ～とんぼとあそぼう『とんぼ祭り』～」では、事業担当者が工作や自然体験などの活動を通じて、子ども同士の交流とともに、生涯学習奨励員と交流する異年齢交流の機会を設定しました。

当日は、子どもに自然体験と異年齢交流を体験させたいご家庭が、岩城赤平の森に集い、子どもたちと生涯学習奨励員の方々との交流を見届けました。

子どもたちは、自分のおじいさんやおばあさんにあたる年代の生涯学習奨励員の方々から手ほどきを受けて、竹とんぼを作って飛ばしたり、虫取りをしたりして、自然体験活動を通じて異年齢交流を体験しました。

事業担当者は当日の様子をこう結んでいます。

「地域の先生（生涯学習奨励員）にほめられた経験は、自分に自信をもつ蓄えになったと思います。（虫博士とか、工作名人とかね。）この思い出を大切に、やさしくたくましく育ててほしいな。」

親子ふれあい事業



「ファミリーフィッシング体験」

令和8年10月3日（土）株式会社釣り東北社代表取締役社長伊藤克朗氏を講師に迎えて、親子ふれあい事業として第二回目となる、「ファミリーフィッシング体験」を開催しました。

この事業は、伊藤社長のご厚意で、「釣り方指導・釣り具・エサ・釣り場選定」が全てセットで参加費2千円で実施しています。そのため、例年母子で参加するご家庭も多く、県内全域から申し込みが殺到し、過去最高倍率を更新する定員の6倍超という応募状況になりました。

当日は晴れましたがあいにくの波浪状況となりました。そのため、伊藤社長が前日から釣り場を確認して、子吉川河川敷でハゼ釣りを行いました。

参加者の方々は釣り初心者でしたが、伊藤社長の指導の下、初めての釣りで「ハゼの爆釣」を経験しました。中には50cmを超える「大物ニゴイ」を釣り上げた方もいて、大賑わいの事業となりました。当日の様子は施設YouTubeで動画視聴が可能です。

事業を通じて、秋田の自然の豊かさと釣りの楽しさを実感していただけたのであれば幸いです。現在、来年度の事業に向けて伊藤社長と計画を練っているところです。お楽しみに。

11月の予定

受け入れ団体等

大館国際情報	10日（火）～ 11日（水）	かんば認定こども園（5歳児）	18日（水）
		かんば認定こども園（3歳児）	19日（木）
<主催事業・出前講座>			
あきた保育園	5日（木）	オープンデー	15日（日）
おとなの課外授業	8日（日）	秋田市西部市民サービスセンター	15日（日）
亀田保育園	12日（木）	岩城公民館	27日（金）
科学フェスティバル	14日（土）	西目公民館	28日（土）

山なみの会 神長 侃（かみながつよし） 名誉会長



令和8年9月27日（日）、当施設勤務経験者で組織する親睦会山なみの会の「神長侃名誉会長」がご逝去されました。神長会長は、旧仁賀保市の中学校管理職としてご退職された後、平成11年度から13年度まで専門指導員として当施設で勤務されました。その後はボランティアとして、子どもたちに自然物工作や自然体験活動のご指導をしていただきました。長年にわたる神長会長のご功績に対し、施設創立30周年と40周年の式典において、秋田県から2回功労賞を贈呈されました。主催事業や出前講座の際に、子どもたちに優しく関わる、神長会長の姿を覚えている方も多いのではないのでしょうか。

神長 侃 名誉会長のご冥福を、心よりお祈り申し上げます。



岩城少年自然の家だより

自然は友だち 青い海原 緑の山なみ

のべ利用者数（1983年6月～2025年8月） 1,157,127 名 9月の利用者数 793 名

秋田県立岩城少年自然の家
（ガンバル岩城）2026. 10. 22



河川文化次世代継承プロジェクトⅡ



第73回子吉川親子ハゼ釣り大会

総勢105名参加の清掃活動

小学校の校長在職中は様々な職業の方と対話しましたが皆人手不足でした。また、地引き網体験を検討した際は市内に網が無いことを知り、想像以上の早さで衰退する地域の姿に愕然としました。

当施設に赴任した昨年度は、地域資源の積極的な活用を目標に、地域社会とのネットワークを構築すべく、地域の方々や団体、行政機関や企業代表の方々とお話しする機会をいただきました。

昨年度末以降、様々な立場の方からご相談いただく機会が増えましたが、異なる地域で酷似した話題を耳にしました。「人手も予算も不足して高齢化で運営が難しい。どうしたら人が集まるのか。明るい見通しが持てない。」など。話題の中心は、予算の確保と効果的な広報活動についてでした。

社会教育施設の配置見直しに係る諮問が令和6年度末に示され、当施設も一般利用促進を施設運営の重点に据え、働き盛り子育て世代向けに新規事業を運営しました。その際、市や企業の代表者の方々からご理解をいただき、市施設利用費の免除や企業協賛を賜り、事業参加者に還元できました。

同時に、市教育長からのご相談を踏まえた県市共催事業の運営や、事業参加者が企業に足を運ぶ人的環流を意識した事業運営に取り組みました。途中、秋田ノーザンハビネッツ株式会社様からお声かけいただき、秋田の子どもたちのために体験活動のお手伝いをさせていただく機会を頂戴しました。

近隣の市では道の駅が閉じ、歴史ある釣り大会が中止になりました。同じ頃に、国土交通省地域生活圏形成リーディング事業への正式参加が決定しました。そこで、事業のつながりを生かして、官民連携の下、地域の文化的行事である釣り大会の継続に協力させていただくことを決めました。

幸いにも多数の方からご支援を賜り、大会当日は105名の方々が清掃活動を行い、大会を無事に終わることができました。参加者アンケートの満足度評価は全回答とも5段階中の5でした。そしてすべての回答者から「第74回大会開催希望」との回答を頂戴しました。

これからの地域生活圏の維持を考えたとき、本事業の運営にはまだ課題があります。同時に、社会教育施設を仲介とした官民連携の形は、生涯学習の振興に向けた一筋の光になるとも感じています。

本大会の運営にあたり、皆様のご協力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。